



今号のトピックス:

規制ニュース

- METI/MAFF: クリアリング機能の強化に向けた今後の取組について

現在進行中のアクティビティ

- コモディティ・クリアリングハウス・タスクフォース - 中間報告書作成
- 年次総会報告およびオフィサーの再選
- FIA-J テクノロジー・コミティー

PEOPLE

- 株式会社大阪証券取引所 代表取締役社長 米田 道生氏

過去イベントの報告

- FIA-J第20回年次総会及びレセプション
- ICE: アニュアル・カクテル・レセプション
- FOW デリバティブス・ワールド・ロンドン

今後のイベント

- FIA-Asia 東京会議
- FIA/FOA IDX London

取引所ニュース

- OSE:  
取引所外国為替証拠金取引市場の創設  
イブニング・セッション取引時間の延長  
コロケーション・サービスの提供
- C-COM:  
マレーシア証券委員会から指定取引所の認定取得
- TFX: 新システム導入
- TGE: 常務理事に山野昭二氏が就任
- TOCOM:  
次期システムについて - アップデート  
TOCOM指数の配分比率見直しとサブ指数の拡充  
貴金属、ゴム市場の見直し

スペシャル・レポート

- 海風で東京の街が大きく変わろうとしています
- 委託者保護基金がFIA-WIに加盟

新会員

編集委員会:

- フランソワ・クレーン - 編集長  
ミッチ・フルチャー  
金森 才子  
小島 栄一  
小坂 孝典  
小川 幹子

## 会長挨拶

### 日本先物市場

2008年は日本における株式指数先物20周年の年です。大阪証券取引所は1988年に日経株式指数先物を創り、同じ年に東京証券取引所はTOPIX指数先物の取引を始めました。翌年、金融取引所(かつてのTIFFE)が初めての金融先物取引所として誕生しました。これらの先駆者や東証で30年前に始まった国債先物は、日本金融先物の開拓者です。商品部門では、大阪堂島の米市場が300年に始まったことが知られています。これは日本の先物業界の優位性を示すものでした。何が起こったのでしょうか?明らかに、日本は先物オプション市場の世界的な発展から立ち遅れています。内閣府すら、日本が世界的な金融センターになるための発展を遂げるべき方法を日本の市場はとれてこなかったと述べています。

### しかし、改革は進んでいます!

新しい取引プラットフォームや、クリアリングハウス機能の向上の動きが発表されています。金融庁も経済産業省も法規制を改めることで金融商品市場を劇的に向上させるためのワーキングプランを発表しました。東京工業品取引所は国際的なプレーヤーの要求を満たす世界クラスの取引システムを導入中です。これについて、東京穀物商品取引所は同じ方向へ進むと表明しています。大阪証券取引所は先物オプション市場のアクションプランを発表しましたし、東京証券取引所はデリバティブの技術改良計画を発表しました。

時を同じくして、日本証券清算機構は東証の現物株・デリバティブ商品に関するクリアリングハウス業務とリスク管理システムの機能向上計画を公表しました。この計画により、日本証券清算機構のオペレーションはグローバルスタンダードに近づくでしょう(計画の多くは、日本の他の金融先物取引所ではすでに実施されています)。日本の商品業界向上のための一要件としてのクリアリングハウスの役割の重要性を鑑みて、経済産業省は、清算機能を国際水準に引き上げるための変更設計のための勉強会と委員会を立ち上げました。FIA-Jの会員も参加していますし、本件についてFIA-Jの提言を添えて、規制当局に中間レポートを提出しました。

まさに、改革は進んでいます!変化に向けた一步は、計画を立てること、そして開始することです。今、実行しようではありませんか。

FIAジャパン 会長  
ミッチ・フルチャー

## 規制ニュース

### METI/MAFF: クリアリング機能の強化に向けた今後の取組について

4月24日、日本の商品先物市場の規制当局である経産省と農水省は、報告書「クリアリング機能の強化に向けた今後の取組について」を公表しました。

報告書は、現行の取引所ごとの縦割り構造とJCCHのありかたについての考察を踏まえて、次のような改革を提言しました。

- ・ クリアリングハウスのガバナンスの強化及び財務基盤の強化(清算手数料の1円/枚 6円/枚の引上げを含む)
- ・ 違約対策財源30億円の積み増し(JCCHの20億円の法人税支払いの後)
- ・ 清算参加者の資格要件の9.7億円 20億円の引上げ

日本の商品取引業界は、基本的にはこの報告書に賛同していますが、違約対策財源の積み増しは20億円の法人税支払いを伴ってではなく20億円の委託者への利益還元を伴ってなされるべき、委託者からの預託により生じる利息はJCCHが自己のものとするべきでないといった意見が出されています。FIA-Jでは、上記報告書に関する皆様のご意見を募集しております。6月10日(火)までにFIA-Jエグゼクティブ・セクレタリー小川(ogawa@brookandbridge)までご連絡下さい。

## 現在進行中のアクティビティ

### コモディティ・クリアリングハウス・タスクフォース - 中間報告書作成

FIA ジャパンのタスク・フォースは、日本の商品市場の清算機能向上のための提言を中間報告書にまとめました。この報告書は、経済産業省の清算機能の研究会への参加との関連から、経済産業省に提出されました。我々の報告書は、特に清算手続きと金融セーフガードやリスク監視に関する管理面での向上を強く求めるものです。これまでも報告してきましたが、現行制度には深刻な欠陥があります。2007年12月、我々は現状を検証し、向上にむけた提言を行うため、特別にクリアリングハウス・タスク・フォースを立ち上げました。タスク・フォースは欧米のクリアリングハウスで採用されている機能と手法を考察し、日本商品市場への導入を評価しました。報告書では、以下の分野についての提言を行っています。

#### ▶財務要件と適正資本の引き上げ

クリアリングハウスの企業資産とクリアリングメンバーの最低純資産要件を引き上げる必要があります。流動資産に焦点をあてた規則を策定すべきです。また、財務保証の基本構造も改善の必要があります(現在の取引所ごとの縦割り構造を含む)。

#### ▶コーポレート・ガバナンス

クリアリングハウス、取締役会と委員会のコーポレート・ガバナンス構造、そして経営管理(利害関係の考慮を含む)に改善が求められます。経営側と取締役会はクリアリングハウスの利益のために積極的に行動する権利をもたなければなりません。

#### ▶リスク管理

取引前後のリスク管理システムが構築されなければなりません。クリアリングハウス自体に適切なシステムやIT機能が必要ですし、取引所やクリアリングメンバーとの密接な相互協力も求められます。クリアリングメンバーの適切な調査も行われなければなりません。

#### ▶証拠金算定方法

リアルタイムの情報によるリスクベースの証拠金算定システムが必要です。SPANなどの国際的に採用されているシステムを導入すべきです。

#### ▶クリアリングメンバーへの情報、サービス

データ、情報、リスク管理のために必要な情報をクリアリングメンバーに提供するための適時性が不可欠です。そのためには、技術と人的資源に対してクリアリングハウスが相当な投資をする必要があります。

その他の戦略的ビジネス検討事項

上記の分野に加え、対処すべき戦略的ビジネス検討事項があります。

- ❖ “利益追求”モデル対“非利益追求”公共事業
- ❖ 証拠金および会員預託への利息付与
- ❖ 清算 OTC ビジネス
- ❖ 顧客資産保管機関としてのクリアリングハウスの役割
- ❖ 海外クリアリングハウスとの関係・支援

タスク・フォースの最終報告書では、これらの戦略的的案件について、さらに考察する予定です。中間報告書は FIA ジャパン事務局から入手できます。エグゼクティブ・セクレタリー小川までお問い合わせください。

年次総会報告およびオフィサーの再選

08年はFIA-Jにとって記念すべき年です。4月16日の夕刻、第20回年次総会が開催されました。発議通り理事が選出され(08年の理事についてはニュースレターの最後をご参照ください)、新しい年会費案が会員によって承認されました。

また、各委員会委員長が昨年の活動を報告しました。委員会活動にご関心のある方は、エグゼクティブ・セクレタリー小川までお問い合わせください。皆様の積極的な参加をお待ちしています。

年次総会後に行われた4月理事会において、フルシャー氏が会長に、太田氏がプレジデントに、茂木氏がヴァイスプレジデントに、小坂氏がセクレタリーにそれぞれ再選されました。



FIA - J テクノロジー・コミティー

FIA-J・テクノロジー・コミティーではこの度、以下のサブコミティーを新たに設置しました。参加ご希望の方は、FIA-Jエグゼクティブ・セクレタリーの小川までお問合せ下さい。

バック・オフィス・サブコミティー

今年度の日本におけるバックオフィスに携わる方々の直面する課題に主題をおき、複数のレギュレーションとシステムの変更をどのように処理すべきか、どのようなテーマがあり、さらに解決方法は何かを考えるサブコミッティにしたいと思っています。皆様の要望・アイデア等をお願いします。

バイサイド・サブコミティー

バイサイド・サブコミティーでは、具体的なトピックについてはこれから検討しますが、最終的にはバイサイドの市場参加者にとって魅力的な市場環境について提言を行うべく、世界中で行われている試み、施策について調査を行います。ご興味のある方の参加をお待ちしております。

データフィード・サブコミティー

現在、データフィード小委員会立上げの準備をしておりますが、日本の市場におけるデータフィードの現状や問題点を理解・共有するとともに、情報交換や人脈形成を可能とする場としたいと考えておりますので、取引所・ブローカー・ISV・情報ベンダー等あらゆるカテゴリーから、ご関心のある方に奮ってご参加いただければと思います。

### EGUSサブコミティー

「EGUS (Electronic Give Up Agreement System)とは、欧米FIAが07年に開発した、ギブアップ取引に関わるドキュメンテーションの電子照会システムです。EGUSサブコミティーでは、そのEGUSの国内使用を促進することとともに、EGUSの国内市場において必要な開発・改善を求める活動を行います。日本でのGive upビジネスを成功させるため、是非皆様のご参加をお願いしたいと思います。

### エクスチェンジ・エンジン・サブコミティー

取引所エンジンサブコミティーは取引所エンジンについての情報を取引所会員、バイサイド、ISVなどに提供する場を設ける場所です。取引所エンジンはただ単に注文が送られ、約定が戻ってくるブラックボックス的存在ですが、実際に調べてみると、個々に個性があり、その個性がビジネスにインパクトをもたらします。活動目標としては、1)取引所エンジン提供ベンダー・開発会社から取引所参加者へ直接行える説明会、2)取引所エンジンに関わる調査報告書の作成、3)取引所エンジンに興味がある人達が集う場の提供です。

### FIXサブコミティー

FIX・サブコミティーでは、FIX Protocol Limited(“FPL”)メンバーとの交流を深めながら、主要な取引所へのFIX接続における多様性を探求するとともに、情報交換や各種イベントの相互参加などの可能性を模索して行きたいと思いません。堅苦しくないサブコミティーにしたいと思いますので、ご興味のある方は是非ご参加下さい。

### フロントオフィス・サブコミティー

フロントオフィス・サブコミティーに於いて他のメンバーの方と協力してゲートウェイを研究し知識を深めたいと計画しております。フロントオフィスの営業の方々のEコマースへの理解を深める一助になればと存じます。フロント及びフロント以外の方々のご参加も大歓迎です。宜しく御願い致します。

### リモート・メンバーシップ・サブコミティー

リモート・メンバーシップ・サブコミティーでは、現在、国内で積極的に導入が検討されているリモートメンバーシップについて、すでに実施されている海外主要取引所の制度や、国内各取引所の取り組みを幅広くリサーチし、それらを基にわが国の規制環境に合ったリモートメンバーシップのあり方を提案してゆきます。皆様、奮ってご参加下さい！

### ウェブサイト・サブコミティー

FIA日本支部のウェブサイト(<https://www.futuresindustry.org/japan>)をご覧になったことありますか。一度もアクセスしたことがない方は是非一度アクセスしてみてください。このウェブサイトの世界の業界関係者向けの情報発信の場にしたいと思う人は、ウェブサイト小委員会に参加しませんか？



## People

### 株式会社大阪証券取引所 代表取締役 米田 道生氏

米田道生氏は日本銀行で札幌支店長を務めた後、2000年に大阪証券取引所(大証)の常務理事に選任される。その後、03年に常務取締役、04年に専務取締役に就任した後、05年より代表取締役社長に就任。

- 大証の取組みについて聞かせてください。

近年、デリバティブの取引は高度化・高速化され、取引所システムに求められる性能も非常に高いものになってきています。大証では06年に取引システムのリプレイスを行い、時代に合うものに変更いたしました。そうして、インフラを整えたうえで、新商品や新制度の導入など様々な取組を実施してきました。

その結果、08年3月期(07年4月～08年3月)には、デリバティブ商品の総取引高が前年同期比78.5%増の1億2千万単位となり、日本のデリバティブ市場で初めて1億単位を超えました。これは、主力の日経225先物・オプション取引の

増加に加え、06年7月に取引開始した日経225miniが急成長しているのが大きな要因です。この他、07年9月にスタートしたイブニング・セッション(日本時間で16:30～19:00)も着実に取引高を伸ばしております。また、現物市場においても金連動型や中国株連動型ETF等新しい商品を上場し、投資家の注目を集めています。

- 大証の今後の展望について聞かせてください

デリバティブ市場を取巻く環境は大きく変わってきております。世界で繰り広げられている取引所の連携・統合の動きを見てみると、デリバティブが一つのキーワードとなっており、デリバティブ市場における競争も激化しています。大証では、本年2月に3カ年に関する中期経営計画を策定しましたが、この計画はこういった環境変化にいかに対応していくかということがポイントとなっています。今後の3年間については、上場商品の多様化を更に進めていくつもりです。また、同時にリモートメンバーシップ制度や24時間取引等の世界標準のサービス提供を目指していきたいと考えています。これらの取組により大証を、デリバティブを中心に現物、ETFも含めてグローバルに存在感のある取引所にしたいと思っています。

## 過去のイベントの報告

### FIA-J第20回年次総会およびレセプション

FIA-Jは第20回目となる年次総会とレセプションを4月16日、六本木の財団法人国際文化会館にて開催しました。年次総会には約40会員から50名近くが、その後のレセプションには90名を超える参加者が集いました。これまでも国際文化会館で年次総会を度々開催してきましたが、05年の改修後は初めてになります。会場には美しい日本庭園があり、参加者は新しい建物と桜を堪能しました。

イベントスポンサー:



### FIAボカラトン会議

去る3月12日から15日までの4日間開催されたFIAボカラトン会議2008、恒例のInformationXchangeでは「日本:ファイナンシャル・センターとしての地位の確立」をテーマとしたセッションも行われました。



セッションは、Fulscher会長が司会を務め、パネリストとして経済産業省の黒須氏、東京工業品取引所の関氏、東京金融取引所の伊藤氏、東京証券取引所の安達氏が参加し、多くの聴衆を集めていました。(写真右から)



また、ウェルカミング・レセプションではFIA-Jがニューエッジ、大阪証券取引所、東京金融取引所、東京工業品取引所と一緒に寿司バーを提供しました。(左写真:セッションでのプレゼン後、寿司バー前で楽しんでいる東工取・関国際課長)

### ICEアニュアル・カクテル・レセプション

4月23日、六本木・BurdigalaにてICE主催のアニュアル・カクテル・レセプションが開催され、150人以上の業界関係者が参加しました。レセプションにはICEのチーフ・ストラテジック・オフィサー(CSO)、David Goone氏もシカゴから駆けつけ、集まった業界関係者たちと日本市場についての意見交換等で親交を深めました。

06年、砂糖、コーヒー、ココア、綿花等を上場するNYBOTを買収したICEのアジアにおける活動に対する市場関係者

からの関心は高く、また本イベントにはエネルギー市場参加者からも数多く参加があり、トレーダーから営業部隊まで、様々な業界関係者が集まり、大変すばらしい会合となりました。この場を借りて、ICEより今一度ご参加頂きました皆様に厚く御礼を申し上げます。

### FOW デリバティブ・ワールド・ロンドン2008

4月8日、9日の2日間、ロンドンのオールド・ビルディングス・ゲート・マーケットにおいてFOW Derivatives World London 2008が開催されました。ブース出展数は昨年と同数の44社で、日本からはTOCOM、TGE、TFX、TSEが出展し、日本のマーケットを積極的にPRしました。同時開催されたセッションでは、サブプライムローン問題に端を発した信用不安や社内トレーダーの不祥事等による危機管理体制の見直し機運の高まりを反映してか、リスクマネジメントに関するセミナーが複数回開催され、なかでもニック・リーソンが講演したセッションには多くの聴衆が訪れていました。

## 今後のイベント

### 2008FIAアジア会議 in 東京

9月17～19日に東京で開催されるFIAアジア会議の企画に向け、我々は活動を進めています。会議は恵比寿のウエスティンホテルで行われ、アジアおよび世界の先物市場から300人以上の参加者を見込んでいます。東京がアジア金融センター設立への意欲を示すチャンスです。

この会議のイベント等のスポンサーに決定しているFIA-J会員は以下の通りです：

- ・主催取引所とゴールド・スポンサー：大阪証券取引所、東京金融取引所、東京工業品取引所、東京証券取引所グループ、Newedge アジア
- ・祝賀レセプション：東京金融取引所および東京工業品取引所
- ・取引所リーダー・規制当局者夕食会：東京金融取引所
- ・9/18昼食会：Newedge アジア
- ・参加者バッグ：日本商品先物振興協会

主催取引所とゴールド・スポンサー他、下記のFIA-J会員がブース展示をする予定です：

- GLトレード、東京穀物商品取引所、株式会社マルチウエーブ、中部大阪商品取引所、パットシステムズ

米国CFTCがこのイベントを支持しており、このイベントの一部であるアジア規制当局者会議の開催にむけ、日本の当局者と協力すると提案しています。

### FIA/FOAがIDX(International Derivatives Expo)を初開催

来月10日と11日にロンドン・The BreweryにてFIA/FOA(Futures and Options Association)共催のIDX(International Derivatives Expo)が開催されます。IDXでは50社以上のブース出展や、30を超えるセッションやワークショップ等を多彩に用意し、業界関係者とのネットワーク作りの絶好の場となっています。

セッションはテクノロジー、コモディティ等のテーマごとにグループ分けされており、ワークショップも数多く用意されています。また、ICAPグループのチーフ・エグゼクティブ、Michael Spencer氏によるキーノート・スピーチや、NYSE Euronext のHugh Freedberg氏、CME GroupのPhupinder Gill氏、EurexのAndreas Preuss氏、ICEのJeffrey Sprecher氏(招待講演)らによるパネル・ディスカッション等、豪華なハイライトも用意されています。

IDXは、メンバー・パートナーらによるサポートを受けており、パートナー企業のマネージメント・クラスからも多数が参加予定です。プログラム、参加登録、スポンサーシップ等イベント詳細はこちらまで：[www.idw.org.uk](http://www.idw.org.uk)

## 取引所ニュース

### 大阪証券取引所:

#### 取引所外国為替証拠金取引市場の創設について

大阪証券取引所は、取引所外国為替証拠金取引市場の創設を決定いたしました。取引開始の目途は09年3月です。米ドル/円を始めとする対円金融指標だけでなく、ユーロ/米ドルを始めとする非対円金融指標を扱います。取引開始から取扱う金融指標については、取引開始までに最終決定します。特徴点は、株式の売買と同様に、オークションの板を用いた取引形態を採用することです。また、マーケットメイカー制度を導入し、マーケットメイカーには売買注文の常時提示義務を課すこととします。

その他詳細についてはこちら [http://www.ose.or.jp/profile/press/080422\\_1.pdf](http://www.ose.or.jp/profile/press/080422_1.pdf)

#### イブニング・セッション取引時間の延長

大阪証券取引所は、昨年、日経225先物取引(日経225mini含む)・オプション取引をはじめとする 株価指数先物・オプション取引についてイブニング・セッションを導入しましたが、投資家の利便性向上のため、本年10月を目途に午後7時から午後8時に延長することとします。今後も取引状況や市場ニーズを踏まえ、取引時間延長を検討する予定です。 詳細についてはこちら [http://www.ose.or.jp/profile/press/080422\\_2.pdf](http://www.ose.or.jp/profile/press/080422_2.pdf)

#### コロケーション・サービスの提供

大阪証券取引所は、今年秋を目途に取引所として国内初となるコロケーション・サービスの提供を開始します。コロケーション・サービスとは、取引参加者のシステム装置を取引所施設内又は施設に近い場所に設置して取引所システムに接続するサービスであり、情報の送受信速度の向上が可能となります。

詳細についてはこちら [http://www.ose.or.jp/profile/press/080318\\_4.pdf](http://www.ose.or.jp/profile/press/080318_4.pdf)

### 中部大阪商品取引所:

#### マレーシア証券委員会から指定取引所の認定取得

中部大阪商品取引所(C-Com)は、マレーシア証券委員会より5月6日付けにて、同国における指定取引所として認定を受けました。またC-Comの全上場商品も、同国での取引を承認された指定銘柄として正式に認定されました。従来はマレーシアの当業者、投資家はC-Com上場商品を取引することができませんでしたが、今回の承認の結果、当所の全上場商品がマレーシアで制限無く取引できることとなり、アジアで取引需要の強いゴム関連商品を中心にガソリン、灯油等の上場商品の取引が期待されます。

### 東京金融取引所:

#### 新システム導入

東京金融取引所(金融取)は、4月28日にLIFFE CONNECT™の新システムを稼動しました。これにより、取引執行スピード世界最速水準のミリ秒レベルを実現。注文件数、約定件数の処理能力(最大注文件数/日600万件等)を大幅に拡大しました。

### 東京穀物商品取引所:

#### 常務理事に山野昭二氏が就任

東京穀物商品取引所は5月28日に第65回通常総会を開催し、常務理事には山野昭二(やまのしょうじ)氏が選任(新任)されました。なお、林正徳常務理事は同日付で退任しました。

**東京工業品取引所:** (詳細については、[www.tocom.or.jp/jp](http://www.tocom.or.jp/jp)をご参照下さい。)

### 次期システムについて – アップデート

東工取は理事会において、システムの安全な切り替えの実施のため、当初09年3月までの稼働を目途としていた次期システムの稼働開始日を約1ヶ月遅らせて09年5月7日とすることを決定いたしました。取引時間は2008年度中に次期システムを導入する段階では、立会を23時までとし、その後、6ヶ月程度を目途に、翌朝7:00まで延長させ「24時間取引」を導入します。そのほか、成行注文を廃止し、国際標準の「Market Order」を採用、スプレッド取引の開始、現行の制限値段を廃止し、サーキットブレーカーを導入、大納会、大発会は現在の半日立会から15:30までの立会へと変更、などを決定しました。

### TOCOM指数の配分比率見直しとサブ指数の拡充

東工取は、今年6月1日から適用するTOCOM Indexの配分比率を決定いたしました(詳細はウェブページご参照)。東工取は06年7月より、「東京工業品取引所商品指数(TOCOM Index)」及び「TOCOMサブ指数(TOCOM Sub Index)」を公表していますが、これらに加えて、「貴金属指数(金、銀、白金、パラジウム)」、「石油指数(ガソリン、灯油、原油)」の他、上場商品ごとのサブ指数を新たに設定し、来月6月から公表します。また、TOCOMはTOCOM Indexやサブ指数を、次期システム稼働後のできるだけ早い時期に、上場できるよう検討を進めていきます。

### 貴金属、ゴム市場の見直し

東工取は、銀の建玉制限について、5月1日より、当業者たる委託者について現行の5倍の3万枚とすることとしました。また、会員の建玉制限についても、純資産額に関わらず一律3万枚までと従来の3倍に拡大しました。また、ゴム、白金、パラジウムの建玉制限についても、6月2日より変更されます。

## 新会員

### Equinix Japan K.K.

Equinixは、大手のグローバルプロバイダーとしてネットワーク・ニュートラルなデータセンター・サービスやインターコネクション・サービスを提供します。グローバルに事業を展開している諸金融機関では、ワールドクラスの信頼性とネットワークの多様性を誇るEquinixをご利用いただいています。Equinixのデータセンターは、ワールドワイドにクリティカルなエクスチェンジやトレーディングプラットフォームへの不可欠な中核ハブとして機能します。また、北米、ヨーロッパ、アジア・パシフィック地域の戦略的に重要な18箇所のマーケット拠点に配置されている39のIBXセンターで、お客様はミッションクリティカルなインフラストラクチャをグローバルベースで確実に運用することができます。Equinixが最重要とする確実なサービスと優秀な通信技術は、お客様に高水準の稼働率と迅速な営業活動展開能力を提供できることを意味します。Equinixのキャリア・ニュートラルなマーケットでは、すでに300社を超えるネットワーク・サービスプロバイダーが利用しています。Equinixの金融機関のお客様は、全て通信業界で最も活発でしかも最も高速なネットワークの最大の供給市場から自由な選択が可能となります。(Nasdaq: EQIX) エクイニクス製品とサービスについての詳細は[www.equinix.com](http://www.equinix.com)をご覧ください。または、Eメール([financial@equinix.com](mailto:financial@equinix.com))までお問い合わせください。

### 大和証券SMBC株式会社

大和証券SMBCは、大和証券グループ本社と三井住友フィナンシャルグループとの戦略的提携を基礎に、開業以来、エクイティ、債券、デリバティブなどの各種商品の開発・提供やIPO、ストラクチャード・ファイナンスを含めた引受業務に加えて、M&Aをはじめとするアドバイザー業務、プリンシパル・インベストメント業務などの幅広い事業分野に積極的に取り組み、着実に実績を築いてまいりました。2006年4月からスタートした中期経営計画の下、「国際的にも第一級の評価が得られる日本最高のインベストメントバンク」を目指し、高度な専門性と最先端の金融技術・ノウハウを活用したハイクオリティの商品・サービスの提供を行い、お客様の多様なニーズに的確にお応えしてまいりたいと考えております。

## *Penson Asia Limited*

(在日代表・清水昭男氏より) この度は、弊社の会員申請をご承認いただき、名誉あるFIA日本支部の会員リストの一員に加えていただきましたこと、Penson Asiaを代表いたしまして御礼申し上げます。その弛まぬ見識と革新性で、FIA日本支部は日本の、そしてアジアの窓口となり、業界に貢献されてきました。その一員に加えていただきましたことは、Penson Asiaの誇りとするところです。Penson Asiaは、上場商品(証券取引所、先物取引所)の注文執行と清算サービスをグローバル展開するPenson Worldwide(ナスダック上場、証券コード:PNSN)の下で07年2月、アジア地域の「お客様のニーズに対応する」目的で香港に設立されました。もちろん開設以来、アジアを理解したプレーヤーであるために心を砕いて参りました。これからも「カスタマーサポート」がPenson Asiaの最優先課題であることは変わりませんが、FIA日本支部のメンバーに加えていただいたことで、アジア地域で活躍される皆様方と共に、地域市場高揚の一躍に貢献できれば、と考えています。

## *NYSE Euronext, Liffe*

Liffeは、世界の先端を行くデリバティブ市場であり、2007年に大西洋をまたぐ取引所として形成されたNYSE Euronext グループの国際デリバティブ業務部門としてその一翼を担っています。弊社は、高機能かつ公正な取引所市場をアムステルダム、ブリュッセル、リスボン、ロンドンおよびパリにて運営しており、そこでは、一日当たり約2兆ユーロ(約310兆円)相当のデリバティブが世界中のお客さまにより売買されています。弊社は、短期金利、個別株、株価指数、スワップ、国債、商品および通貨といった原資産についての広範なデリバティブ商品をお客様に提供しており、これらは全て、弊社の最新式電子取引プラットフォームであるLIFFE CONNECT® 上で売買可能となっています。また弊社は、これらの先進的な商品にとどまらず、お客さまと共に先駆的なサービスを開発しています。例えばBclearサービスは各種の表彰を受けており、お客さまのビジネスの効率化かつ機能化に貢献しています。Liffeのビジネスの詳細につきましては、下記のウェブサイトをご覧ください。

[www.nyx.com/liffe](http://www.nyx.com/liffe) \*連絡先:数原: izumi.kazuhara@liffe.com / 03-5521-6991

## その他

### *海風が東京の町を大きく変えようとしています*

東京を上空から眺めると、東京湾と皇居の間に一筋の道が通っているように見えます。東京湾に注ぎ込む墨田川が八重洲通りを迂回して皇居まで続く風の道です。しかし、残念ながら実際の風はこの道を吹き抜ける事はありません。風の道をちょうど遮るように東京駅ビル(旧大丸デパート)が建設されているからです。ところが東京駅再開発プランによると、そのビルは取り壊され2013年までに2階建ての低層ビルが建設されることになっています。長い間閉ざされていた風の道は開放される事になり、東京湾からの新鮮な海風は東京駅の上空を通過して樹木で覆われた皇居(巨大なクーラー)に流れ込みます。皇居の冷たい空気は風となって丸の内だけでなく、新宿、六本木、青山にまで運ばれて行き、周辺の気温を1-2度下げると予想されています。海風がどのような変化を東京の町にもたらすのでしょうか。中国では風水とも呼ばれていますが、風の流れが変わると運命も変わります。東京湾からの新しい風は東京に幸運を運ぶ事でしょう。

### *委託者保護基金がFIA-Wアソシエート・メンバーに加盟*

FIA-Wは、日本商品委託者保護基金(NFPF)のアソシエート・メンバーとしての加入を3月12日付で認可しました。NFPFは商品先物市場の委託者保護を充実させるために、05年4月に設立された団体。商品取引員が倒産し、万一、委託者債権を弁済しきれなくなった場合に、委託者一人当たり1,000万円を限度として弁済を実施する“ラストリゾート”の役割を果たしています。商品取引員は商品取引所法によりNFPFへの加入が義務づけられています。NFPFがFIA-Wに加盟を求めた背景には、日本商品先物市場の国際化に向けた急速な動きがあります。予想通りに国際化が進めば、NFPFにおいては、将来的に海外委託者を含む弁済事件の発生も視野に入れておかなければならなくなり、このため「国際的な対応を考えていく上で、FIAには世界の動静の把握とNFPFからの情報発信に手を貸してもらいたい」と宮本晶二副理事長は期待しています。



The FIA-Japan Chapter was organized in 1989 as a nonprofit organization by foreign and Japanese futures industry participants. It is the only organization in Japan of its type with a membership drawn from the entire cross section of the futures industry. There are about 60 members representing all of the corporate sectors participating in the futures and options industry in Japan.

**Board of Directors and Officers**

**Officers**

Mitch Fulscher, Chairman	Financial Consultant
Shozo Ohta, President	Tokyo Financial Exchange Inc. (TFX)
Yasuo Mogi, Vice President	Newedge Japan Inc.
Takanori Kosaka, Secretary	HSBC Securities (Japan) Limited
Junko Ueno, Treasurer	Newedge Japan Inc.

**Other Board Members**

Teruyuki Fujino	Bear Stearns (Japan), Ltd.
Fumihiko Kimura	Central Japan Commodity Exchange (C-COM)
Yoshio Kuno	CME Group, Tokyo Office
Naoaki Kurumada	Dot Commodity, Inc.
Mitch Fulscher	FIAJ
Michael Ross	GL Trade Japan K.K.
Takanori Kosaka	HSBC Securities (Japan) Limited
Osamu Akita	Japan Commodity Futures Industry Association
Shinjiro Mizuno	Kanetsu Shoji Co., Ltd.
Scott Shenk	Merrill Lynch Japan Securities Co., Ltd.
Yasuo Mogi	Newedge Japan Inc.
Hideki Noda	ORIX Investment Corporation
Mikio Hinoide	Osaka Securities Exchange Co., Ltd. (OSE)
Duncan Symmons	Patsystems Japan K.K.
Julien Le Noble	Newedge Japan Inc.
Hiroyuki Takai	Sumitomo Corporation
Mikio Kawamura	Tama University
Mitsuhiro Onosato	The Tokyo Commodity Exchange (TOCOM)
Masanori Hayashi	The Tokyo Grain Exchange (TGE)
Shozo Ohta	Tokyo Financial Exchange Inc. (TFX)
Junnosuke Inoue	Unicom Group Holdings, Inc
Koichiro Ohashi	White & Case LLP

**Executive Secretary**

Ms. Motoko Ogawa E-mail: [ogawa@brookandbridge.com](mailto:ogawa@brookandbridge.com)

**FIA-J Office**

c/o White & Case LLP  
Kandabashi Park Building 19-1, Kanda-nishikicho 1-chome, Chiyoda-ku,  
Tokyo 101-0054  
Tel/ fax 81 (0)3-3259-0220

Opinions contained in this newsletter are of the contributors' personal opinions, and FIA-J does not represent either for or against such opinions, unless otherwise clearly stated. FIA-J makes no representations and to the extent permitted by law excludes all warranties in relation to the information contained in this publication and is not guaranteed by the FIA-J as to accuracy and completeness. FIA-J is not liable to any third party for any losses, costs or expenses, including any direct, indirect, incidental, consequential, special or exemplary damages or lost profit, resulting from any use of the information contained in this publication. If you have any questions regarding the contents of the newsletter, please contact the Editor or the FIA-J Executive Secretary.